

# 2026 年 1 月留学報告書

島根大学大学院自然科学研究科 青木待心  
n25m101@matsu.shimane-u.ac.jp

## 1 はじめに

2025 年 8 月より、インドのバンガロールにある Indian Institute of Science, Bangalore (以下、IISc)<sup>1</sup> の CPDM<sup>2</sup> に留学している青木待心です。今回が最後の留学報告になります。

## 2 学業について

受講している講義は、11 月から 12 月にかけて、期末テストとコースプロジェクトの発表を終えました。HCI (Human Computer Interaction) の基礎的な部分から学ぶことができ、修士課程のこのタイミングで基礎と応用について学ぶことが出来たのは、今後の研究活動において重要になると感じています。

また、コースプロジェクトでは、生成 AI を用いた音楽生成に関するシステムを開発しました。今回は、ラボのメンバーと共に、このコースプロジェクトを発展させて、実際に障がいのある方々に使用してもらい、システムの評価を行いました。私の専門とする Assistive Technology の分野では、当事者に実際に使用してもらい、フィードバックをいただくことが重要であることから、今回、システムの評価をする機会をいただくことができ、非常に良い経験となりました。研究のストーリーを考えた上で実験デザインや事前準備について学ぶことが出来ただけでなく、実際にシステムを利用した方々の笑顔や楽しそうな姿を見て、私自身も嬉しさを感じ、技術が人の活動を豊かにすることを学ぶことが出来ました。

## 3 旅行・課外活動

### 3.1 旅行

11 月には、デリー・アグラ・ジャイプールという観光客がよく訪れる三都市を回りました。デリーはインドの首都であるニューデリーがあることで知られており、インド門やレッド・フォートといった遺産もある都市です。アグラはタージ・マハル、ジャイプールは旧都市街がピンク色であることが有名で、バンガロールとはかなり異なる街並みや遺産が並び、北インドと南インドの違いを大きく感じた旅でした。

---

<sup>1</sup><https://iisc.ac.in>

<sup>2</sup><https://iisc.ac.in/locations/centre-for-product-design-and-manufacturing-cpdm>



(a) アンベール城（ジャイプール）



(b) タージ・マハル（アグラ）

### 3.2 課外活動

この時期はイベントがかなり多く、可能な範囲で学外に出て参加しました。個人的に面白かったものを取り上げます。

#### 3.2.1 TechSparks2025

TechSparks2025<sup>1</sup>は、インド国内における最大規模のスタートアップ・テック関連企業のカンファレンスです。国内のテック系企業だけでなく、行政や日本企業からも参加者があり、インドのスタートアップ熱を色々な面で感じることができ、大きな刺激になりました。カンファレンスでは、様々な企業による講演やディスカッションのほか、各企業のサービスやAIを活用したデモも体験することができ、テック企業が集まる都市であるバンガロールならではの機会を得ることができました。インドの起業エコシステムについては勉強になる部分も多く、さらにインドのテック系人材やスタートアップに対する、日本政府や企業の取り組みも学ぶことができ、今後のインドと日本における産業分野の連携も楽しみになりました。



(a) TechSparks2025



(b) AI を使って、絵を描くロボット

#### 3.2.2 EnAbleIndia でのボランティア

大学での勉強以外に、インドにある障がい者福祉関連のNGOであるEnAble India<sup>2</sup>でボランティアをしています。11月には、視覚障がいのある方とトレッキングをするイベントに参加しました。1対1で周囲の様子や足元の段差などを説明しながら、山を登りました。ペアに

<sup>1</sup><https://techsparks.yourstory.com/2025>

<sup>2</sup><https://www.enableindia.org>

なった方と、お互いに助け合いながら山頂まで登り切ることができ、景色も経験も思い出になりました。また、後日に EnAble India のオフィスを訪問し、業務などについてお話を聞かせていただきました。障がいのある方の就労支援や社会進出支援、障がいに関する啓発のほか、Assistive Tech についての開発や紹介等も行なっており、私自身の専門とマッチする部分も多く、非常に勉強になりました。オフィス内は、様々な障がいのある方が共に働くことができるよう、インクルーシブなデザインが至る所に施されており、魅力的な空間でした。



(a) バンガロール近郊でのトレッキング



(b) EnAble India オフィスの Assistive Tech

## 4 最後に

最後になりますが、今回の IISc への留学にあたり、支えてくださった方々にお礼申し上げます。まずは、交換留学生として島根大学から送り出してくださった、島根大学国際課の皆様、受け入れを許可してくださいました、IISc の Office of International Relations の職員の皆様、並びに、I3D Lab<sup>1</sup>の Dr. Pradipta Biswas とラボのメンバーに感謝申し上げます。島根大学で初めてのインドへの交換留学生であり、修士課程の一学生である私を送り出し、受け入れてくださった皆様には心配をおかけすることもあったと思いますが、皆様のケアなしには、大きな問題もなく留学生活を終えることが出来ませんでした。ありがとうございました。

そして、本留学にあたり、文部科学省「トビタテ！留学 JAPAN<sup>2</sup>」の第 17 期生として採用され、経済的な面だけでなく、留学に関するアドバイスやキャリアについて考える機会をいただくことができ、様々な面でご支援いただきました。トビタテ事務局や支援企業、先輩トビタテ生の皆様に感謝申し上げるとともに、同期として世界中に飛び立ち、それぞれのフィールドで日々、奮闘しているトビタテ 17 期の仲間たちにも感謝申し上げます。

また、本留学にあたり、私の選択を理解し、応援してくださった研究科教職員の皆様や課外活動を行なっている皆様、日本の家族、友人たちに感謝申し上げます。インドでの生活を通して、顔を合わせ、時間と場を共有することの重要性を改めて実感しました。印度で学んだことを今後の日本での様々な活動に役立てたいと思います。

最後に、留学に関するすべてのことを通して、私は日頃から多くの方に支えられていることを心から実感しました。これまでお世話になったすべての皆様へ、「恩返し」するだけでなく、この先、留学をはじめとする様々なことに挑戦する方の助けになるような、「恩送り」を行なっていきたいと思います。本当にありがとうございました。

<sup>1</sup><https://cambum.net/I3D.htm>

<sup>2</sup><https://tobitate-mext.jasso.go.jp>